

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1272200799		
法人名	有限会社グループホームさんぼみち		
事業所名	グループホームさんぼみち柏		
所在地	柏市布施新町3-28-20 (電話) 04-7135-3031		
評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年3月5日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(平成21年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	12 人	常勤 2人, 非常勤 10人, 常勤換算 4.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木質系組立構造		
	2 階建ての 1 階 ～ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	昼食 円
	または1日当たり 2,000円		昼食

(4) 利用者の概要(平成21年 2月 20日現在)

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護 1		要介護 2	2 名
要介護 3	2 名	要介護 4	4 名
要介護 5		要支援 2	
年齢	平均 82 歳	最低 64 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	我孫子つくしの病院 我孫子中央歯科室		
---------	--------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、平成6年調布市でケアハウスを立ち上げた法人が、平成12年に柏市第一号のグループホームとして開設した施設である。閑静な住宅街の木造2階建二世帯住宅を一部改造したもので、居室は1階に2室、2階は3室・3室が壁で仕切られ、それぞれの急階段を使う構造である。運営者は自然の中で普通の家庭生活をとの信条から、冷暖房は少ない目でホーム内の段差はリハビリになるとの認識である。利用者の毎日の様子は詳細に記録され、管理者、職員で確認共有して、本部の運営者に報告し、適切なサービスの提供につなげている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果は居間に掲示され、利用者、家族、来訪者等が自由に閲覧可能である。職員はミーティングで検討して改善について運営者に提案している。理念の明示、運営推進会議の充実、消防署との連携、防火管理者を置く、空気清浄機の設置などの取り組みを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は従来通り、職員2名が中心となり原案を作成した。その原案を全職員で検討しあい、運営者のチェックと承認を得て決定した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は柏市の指導により年3回開催している。構成メンバーは家族代表2名、包括支援センター職員、民生委員2名、介護支援専門員、職員、管理者、運営者である。内容はホームの運営状況報告や、浴室、階段など住宅改修についてや、出席メンバーからは利用者の生活充実のためボランティアの積極的活用などの意見があった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者毎の個人記録を基に、毎月個人記録総評を作成し運営者のコメントを添えて家族に送付しているが、家族の面会時には直接見てもらい、確認のサインやコメントを頂いている。来所出来ない場合は電話連絡などにより家族の意向や満足度の把握をしている。家族からは「食欲が出て健康の改善が見られた」「明るくなった」などの声が寄せられている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、利用者は職員と一緒にゴミ当番や回覧板を届けたりして地域に馴染んでいる。自治会主催の祭りや盆踊り、運動会、喫茶室などに楽しく出かけている。また運営推進会議メンバーの紹介によるボランティアを受け入れている。散歩は行動範囲が幾分狭くなってきているが、近所の方たちと元気にあいさつを交わしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で考え運営者の了解を得て定めた理念で、「安心して暮せる安定した生活を維持」「残存能力を引き出し一緒に参加できる環境をつくる」「尊厳ある生活を守る」の3つである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念作成には職員と運営者が携ったので、共有の認識になっている。理念は居間に掲示していつでも見られるようにしており、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、ゴミ当番や回覧板届けなど利用者と一緒に行っている。また自治会主催のお祭りや盆踊り、花火大会など楽しみに出かけている。近所への散歩ではあいさつを交し時には花や野菜を頂くこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は居間に掲示され利用者、家族、来訪者等が自由に閲覧可能である。また全職員で改善点を検討して運営者に提案している。昨年度の課題のうち、理念の明示、運営推進会議の充実、空気清浄器の設置、防災管理者研修等、改善に取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	柏市の指導により、年3回開催した。参加者は家族代表2名、民生委員2名、包括支援センター職員、介護支援専門員、職員、管理者、運営者等である。議題は利用者の状態やホームの運営状況、出席者からはボランティアを紹介したいなど多岐にわたった。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者や幹部職員が柏市街方面に出向いた時は、柏市の担当課を訪ね状況報告や指導を仰いでいる。柏市GH連絡会主催の講座には毎回市担当者も参加されている。同主催の町会向けの認知症講座に職員も参加して、住民とともに学び認識の共有に努めている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者ごとに入居後の様子を毎日記録しており、その記録を月毎に要約した個人記録総評を運営者のコメントをつけて、請求書に同封し家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個人記録総評の送付や面会時には記録全体の開示をして、要望や意見などの把握に努めている。相談・苦情受付窓口は契約書、重要事項説明書に明記している。苦情は殆どなくアンケートにも職員は明るく親切、相談にも気軽に対応してくれるなどの声が見られた。	○	ケアの充実には、利用者、家族等、運営者、職員が自由に意見交換することが欠かせないと思われる。苦情は殆どないが意見、要望等を聞くため面会以外にも家族交流の場として参加しやすい行事等の実施を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は介護士や看護師、栄養士など知識と経験が豊かな構成で、職員同士の関係も良好である。ここ3年は離職者はいない。新入職員には3ヶ月研修を定めており利用者へのダメージを防ぐ配慮がなされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はOJTを重視している。毎日作成の個人記録によって記録作成と反省を繰り返し学ぶことや、幹部職員は職務を1～2年のサイクルで交代し、お互いに経験し合うなどの取り組みをしている。外部研修は柏市主催の認知症についての研修に参加した。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム(GH)連絡会に参加している。柏市GH連絡会主催の2ヶ月ごとの定例会や年2回の講演会を通して、他事業所のスタッフと情報交換や交流をはかっている。交流を通して課題の発見もあり、サービス改善に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や、ホーム長と管理者が本人の自宅に訪問し話を伺うなどして、ホームの雰囲気や他の利用者、職員に馴染んでもらえるようにしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から、昔のことわざを教えてもらったり、小さい頃に培った物を大切にすることなどの話を聞いて学ぶことも多い。また普段の会話の中で優しい言葉に癒されたりして支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とは日々の会話の中で、家族とは面会時や電話で、それぞれの思いや意向の把握に努めている。気持ちの表し方が困難な利用者には、表情や行動から推察したり、家族から話を伺うなどして希望や意向に沿った支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画担当者は職員会議や、家族からは電話で話を伺うなどして、意見や希望が反映された介護計画を作成している。また利用者毎の支援目標の一覧が事務コーナーに常備され、職員はいつでも目標が確認出来て、確実なケアの提供につなげている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは昨年までは6ヶ月ごとであったが、本年からは3ヶ月ごとの見直しに改善した。利用者の状態に変化が見られ介護の内容や方法が合わなくなるときなどは、都度話し合いをして見直しをし家族の了解も得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入浴日以外は毎日マンツーマンで、手を繋いだり腕を組んだりしての散歩で歩行支援をしている。医療機関へは家族の要請を受けて同行受診している。ホーム長は地域の住民から介護の相談に応じることもある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歩いていける2ヶ所の医院で受診している。利用者によって、総合医院には月1回、精神科には月2回の通院があり、家族の要請を受けて職員が同行受診している。受診結果は家族に連絡している。その他に24時間往診可能な提携医療機関がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関しては入居時に話しているが、ホームの方針は未定である。利用者に状態の変化があった時は病院に入院してもらっている。	○	入居年数が長い利用者が多く、重度化や終末期に向けた方針の共有が望まれる。研修の充実はもとより、協力医院との連携のもと、利用者が安心して過ごせる取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護方針の遵守や秘密保持については契約書等に明文化し適切に対処している。また本人の嫌がることや傷つけつるような言葉使いや対応はしないなど利用者の尊厳を守るように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおよそ決まっているが、その中で童謡を歌う、詩作や絵を楽しむ、折り紙を折るなど各々の希望を尊重して過してもらっている。ホーム長が図書館から本を借りてきての読み聞かせは、子ども時代にタイムスリップできると利用者から大好評である。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューはその日の利用者の希望などによって柔軟に決めている。野菜の下ごしらえやテーブル拭き、片付けなど利用者と一緒にやっている。食事は職員が一緒にテーブルで食べ、利用者に常に声掛けするなど気を配りながら楽しい雰囲気です。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月・金の週2回で、入浴時間にはスタッフを増員している。コミュニケーションを取りながら楽しく入浴できるよう対応している。利用者が入り易いようにするため、半埋め込み式浴槽に改善すべく、浴槽の取り替えを検討しており、費用を見積り中である。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵を描いたり詩作を楽しむ、洗濯物をたたむ、庭の草取りや野菜の世話をするなど、能力に応じた生活歴を活かした役割の支援をしている。あけぼの山公園の花見や県民プラザでの演芸会、外食など楽しみな外出支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入浴日以外は毎日、外気浴と歩行支援を兼ねて近くを散歩している。途中で、庭に咲いている花や秋には柿を頂くなど、ご近所と顔馴染みになっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを目指しているが、建物の構造上、玄関は職員の目が届きにくい死角になっているため、利用者の安全の確保の為に施錠している。現在、施錠の代わりにドアに大きな鈴を付ける案があり検討中である。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は近所の方にも声掛けして自主訓練をした。消防署からは指導を取り付けている。ADLの低下が懸念される2階の利用者の一部の人には、1階の相部屋に移ってもらい緊急時に避難等がしやすいようにした。	○	本年度から防火管理者をおくなど、防災に取り組んでいるが、建物の構造上危険も考えられる。消防署との連携強化、自治会への協力をお願い、避難訓練などについて更なる改善を検討して頂きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の天候や状態に合わせて職員が臨機応変に献立を立て、栄養士の職員がチェックして調理している。アンケートでも入居してから栄養の不足が無くなり褥そうも無くなったとの声も寄せられている。食事・水分とも摂取量は毎日記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関も狭く、居間からの見通しは悪い。現在、急勾配の階段を改造すべく建築業者に見てもらい費用を見積り中である。室内の段差は普通にあり、「段差もリハビリのうちの」の考え方で対応している。	○	建物には多くの制約はあるが、利用者の安全と安心を図るため、最大限の配慮をした構造と運営について検討されることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人または二人部屋である。入口には折り紙で作ったネームプレートに「○○さん」とさん付けの名前が書かれている。二人部屋は2つのベッドを置くと通行にやっとの状態で、本人の持ち込み物を置く余裕は殆どない。	○	6畳大の居室にベッドを2台据えるだけで空間の余裕は殆ど無く、居室はおおむね寝室としての機能に特化している。二人部屋としての空間の保持等に関しての検討をお願いしたい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。